

能登半島地震に係る 状況確認・情報発信分野の検証について

電気事業連合会

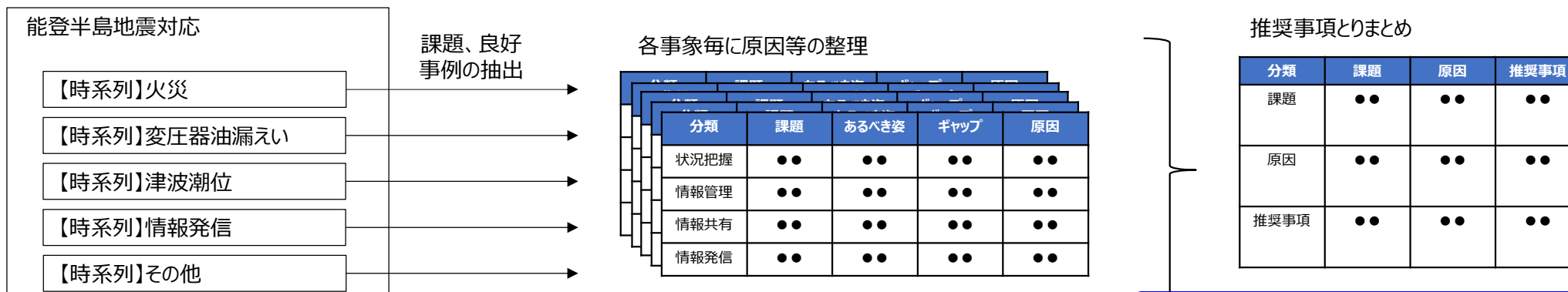
1. はじめに

- ✓ 令和6年1月1日に発生した能登半島地震時の原子力発電所における現場の状況把握から対外的な情報発信までの一連の活動について、事業者、電事連で体制を構築し検討を進めてきた。
- ✓ その結果、関係者間の認識の相違や情報管理の不十分さから、誤情報の発信につながったといった課題があった。
- ✓ 今般、影響の大きかった火災発生時の誤情報発信、津波による取水槽内の水位変動の誤情報発信、変圧器からの絶縁油の誤情報発信等の能登半島地震に係る対応（状況確認・情報発信）を検証し、推奨事項を取り纏めた。

2. 検証方法

- 能登半島地震に係る対応（状況確認・情報発信）の全てを検証対象
 - 特に影響の大きかった3事象（「火災有無の報告」、「変圧器の油漏えい量の報告」、「津波による潮位上昇量の報告」）について重点的に検証
- 検証は各事象の対応時系列をステップ毎整理・分析し、課題・良好事例を抽出
 - 課題は4ステップ（「状況把握」、「情報管理」、「情報共有」、「情報発信」）に分類し整理
- 抽出した課題に対して、あるべき姿を設定。課題とあるべき姿のギャップに対して原因を分析した
 - 原因は4つの観点（「要員・体制」、「ルール・ガイド」、「資機材」、「教育・訓練」）に分類し分析
- 各事象の共通的な課題や原因に対して、推奨事項をとりまとめた。

<検証の流れ>



3. 検証結果：共通的な課題・原因・推奨事項

	課題	原因	推奨事項
状況把握	<ul style="list-style-type: none"> ・状況把握に際して収集すべき情報の収集不足 ・関係者間の連携不足（不確実性に関する情報を報告していなかった） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール・ガイド（状況把握に際して収集すべき情報の項目の標準化）が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集に係る運用の改善
情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者間の連携不足（不確実性の有無について、関係者間での問いかけ不足） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール・ガイド（収集すべき情報の項目の標準化）が不十分 ・要員・体制の問題（入手情報の正確性、質問意図の確認が不十分） 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集に係る運用の改善 ・情報の一元管理に係る運用の改善
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者間の連携不足（口頭で情報共有を行ったため、質問と回答の認識のズレが発生） ・共有情報が一元管理されていない（発話による情報共有を主とし、記録に残る形で管理されていない。また、情報が関係者全体に共有されていない。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール、ガイド（情報が輻輳する状況下でも情報が一元的に管理・共有できるような運用）が不十分 ・資機材の問題（情報共有ツールを使わず、口頭での情報伝達となっていた） 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報整理に係る運用の改善 ・情報の一元管理に係る運用の改善
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・対外発信の情報一元化不足（共有・可視化・ルール） ・誤情報発信時の速やかな訂正等、発信内容、手段の不備 ・第三者発信の把握困難（省庁会見、SNSの情報の把握ができていなかった） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール、ガイドが不十分（情報が一元的に管理・共有できるような運用が明確でなかった） ・要員・体制の不足（第三者が発信する情報を網羅的にリアルタイムで確認・共有する要員のリソース（マンパワー）が不足） 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の一元管理に係る運用の明確化 ・対外要求を踏まえた情報発信（最適手段含む）の徹底 ・各種報道情報の把握に係る電事連の支援体制の強化

4. 推奨事項を基にした具体的な対応等（1 / 2）

検証結果から得られた推奨事項のうち、共通して見られた「情報収集・情報整理に係る運用の改善」「情報の一元管理に係る運用の改善」に関する推奨事項については、具体的なガイドを作成する。ガイドを基に各社運用を確認し、必要に応じて、運用の改善を図る。また、訓練により運用の改善効果を検証する。また、継続的に訓練を繰り返すことで、要員の運用の定着を図る。

【ガイドの概要】

- 「情報収集・情報整理」に係る事項
 - ✓ トラブル時における情報収集・情報整理に係る着眼点、留意事項等を整理。
 - ✓ トラブル一般に係るものに加え、「地震」「火災」「漏えい」等の主要なトラブルについても着眼点、留意事項等を整理。

- 「情報の一元管理」に係る事項
 - ✓ トラブル対応時の状況（要員の参集状況、資機材の準備状況等）に応じて適切に対応できるよう、要員参集の状況等に応じた活用資機材の明確化等を整理。

4. 推奨事項を基にした具体的な対応等（2 / 2）

- 各社においては、対外要求を踏まえた情報発信に努める。
 - ✓ 対外情報発信の一元管理に向けて関係者間での情報連携強化を実施。
 - ✓ 伝えるべき安心情報の内容、優先順位、選択すべき発信情報（SNS投稿、プレスリリース、会見）を整理する。
- 電事連においては、関連情報の把握や発信に係る支援を実施。
 - ✓ 電事連による支援のルール化（例. 電事連HPに特設サイトを作成し、疑問・不安に回答）

能登半島地震による各原子力発電所への影響について（電気事業連合会HP抜粋）

電気事業連合会

特設サイト
能登半島地震による
各原子力発電所への影響について

このたびの地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
本サイトでは、今回の能登半島地震による周辺地域に立地している各原子力発電所へのこれまでに判明している影響をとりまとめるとともに、皆さまの疑問・不安にお答えさせていただきます。

なお、本サイトは北陸電力へのヒアリングをもとに作成しています。

(2024年6月12日時点)

参考情報

重点3事象	概要
火災有無の報告	<p>2号主変圧器について、1月1日に原子力規制庁へ報告した際、「油のにおい」を「焦げ臭いにおい」と、放圧板の「作動音」を「爆発音」と、また、噴霧消火設備が起動していることもあり、火災発生と誤って伝えた。</p> <p>その後、火災がなかった事実を確認したが、火災ではないという連絡に時間を要したため、一時的に国が「火災」が発生したとの認識に至った。</p>
変圧器の油の漏えい量の報告	<p>2号主変圧器での油の漏洩について、漏えい箇所が高い場所であり、現場では上部にある機器を正確に把握することが困難であったことから、変圧器コンサベータに設置されている油レベル計をもとに漏えい量約3,500リットルを算出（推定）してプレス。（1月2日プレス）</p> <p>その後、油を回収しつつ、図面を詳細に確認した結果、冷却器配管・変圧器本体上部の一部も漏えい箇所より高い位置にあることを確認し、漏油量を約19,800リットルに改めプレス。（1月5日プレス）</p>
津波による潮位上昇量の報告	<p>地震発生後、運転部門において水位上昇を確認していたが、関係者に適切に情報連携されておらず、またプレス内容作成段階での原子力部・発電所間の情報共有・連携不足から、「水位に有意な変動はなかった」と説明。（1月2日プレス）</p> <p>翌日、取水槽内の海水面が17時45分から18時頃にかけて約3m変動したことを公表。（1月3日プレス）</p>